

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

NITS・教職大学院・教 育委員会等	実施機関名・連携機関名 茨城県教育研修センター
コラボ研修プログラム	事業名： 教師の魅力について考えるセミナー（参集型・オンライン型）
支援事業報告書	研修等名：【NITS・茨城県教育研修センターコラボ研修】 教師の魅力について考えるセミナー 「今の学校が未来の社会～ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方～」
	開催日時：令和7年2月1日 9時30分～16時40分 開催場所：茨城県教育研修センター講堂、（茨城県笠間市平町1410） 参加人数（総数）と参加者の属性：242人（現職教員164人、大学生・高校生7人、教育関係者42人、一般29人）（参集型：142人、オンライン型：100人）

目的：本セミナーは、教師の魅力について考えるセミナーとして毎年開催している。今回は、「ウェルビーイングな学校創りや教師の働き方」について、「子供と向き合う中で感じる魅力」について「対話」を通して追求し、教師の資質・能力の向上を目指すために企画した。参加者一人一人が自己の在り方を見つめ直し新たな気づきを得ることで、視座を高めることを目的として実施した。

内容：【第1部】	(1)	【基調提案】（9：30～10：35） 「ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方」 本センター主任指導主事 眞崎 恒一郎
	(2)	【研究協議】（3分散会）（10：40～12：00） 「ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方」 ①管理職等、②ベテラン・中堅教諭等、③若手・学生等
	【第2部】(3)	【講演】（13：00～14：30） 「思うは招く 夢があればなんでもできる」 植松電機代表取締役 植松 努
	(4)	【パネルディスカッション】（14：40～16：40） 「ウェルビーイングな学校創りと先生の在り方」 【パネラー】 大阪市立大空小学校初代校長 木村 泰子 時事通信出版編集委員 坂本 建一郎 植松電機代表取締役 植松 努 本センター主任指導主事 眞崎 恒一郎

成果：

アンケートの結果、「今回の研修を通して、自己の在り方を見つめ、新たな気づきを得ることができる研修であった」と回答した受講者は98.2%であった。第1部の【基調提案】については、「ウェルビーイングな働き方につながるたくさんの視点を得ることができたので、その後の対話への意欲が高まった。」「自分自身の心の在り方、人生観等、自己内省するよい機会となった。」等の感想が聞かれ、その後の【研究協議】につながる「意識付け」として有意義な時間となった。【研究協議】では、4人1組で対話を行ったが、終始活発な話し合いが行われていた。「同じ立場の人の話を聞き、安心した。」「事前の基調提案を聴いていたので視点が明確になり、自分の在り方を見つめるよい機会となった。」「自分のウェルビーイングが子どものウェルビーイングにつながることに気付いた。」等の感想が聞かれ、各自の視座を高めるよい機会となった。第2部の【講演】は、具体的な事例をもとにした大変分かりやすい内容であった。参加者からは、「子どもたちに、好きなことを見つけ貫く大切さを伝えたいと思います。そして、好きを貫く子ども達の、頼れる味方でいたいと思いました。」「『だったらこうしてみれば』をすぐにでも使っていきたいです。」等の感想が聞かれ、企業経営者から、学校創りや働き方、子育てに活かせる気づきを得た意見が多く、大変好評であった。【パネルディスカッション】では、第1部の【研究協議】で出された気づきや新たな疑問をまとめたホワイトボードを活用した。その結果、会場の参加者とパネラーの一体感が生まれ、ウェルビーイングな自己の在り方等について視点を明確にして、主体的に聴く姿が見られた。

多様な立場の方々が一堂に会した研修であるが、温かい雰囲気での対話や講演、パネルディスカッションから各自新たな気づきを得ることができた。オンライン型は第2部のみの設定であったが、参加者からは「多くの学びがあり大変貴重な時間となった。」等の意見が多数聞かれた。自己の在り方（人生観や教育観等）を見つめ直し、豊かな気づきをとらえて、視座を高めることができる研修となった。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

今回は、第1部に令和の日本型学校教育の実現に向け、ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方について様々な視点を提示する目的で【基調提案】を行った。その際、参加者一人一人が自己の在り方を見つめ直し、豊かな気付きを得ることができるよう、「NITS からの提案」にある「研修の3要素」や「学びの相似形」について取り上げた。参加者からは「基調提案で様々な視点を知り、早く対話をしたくなった。」「対話や講演を聴きながら自分の学校での実践や子どもへの接し方について考えることができた。」等の感想が聞かれた。さらに、キャリアステージごとに分かれて対話を行った【研究協議】では、「学校創りのために自分の立場から何ができるだろうと考える視点が大切であると気付いた。」等の感想が聞かれ、視点を明確にした対話をとおして、参加者各自が自己の在り方について新たな気付きを得ることができた。これらのことから、対話をとおして内省や自己内対話を促すには、視点を明確にする等、「意識付け」の場の設定が有効であると再認識した。

第2部の【講演】では、子供たちが「どうせ無理」と思わずに、夢をもつ勇氣と自信をもてるようにするために、子供たちへの接し方について学び、【パネルディスカッション】では、植松努さんの「人の自信と可能性が奪われない社会」、木村泰子さんの「子供が育つ学校」について言及した話から学びとり、参加者各自の課題解決に活かす「きっかけ」とすることを目指した。参加者から『「思うは招く」この言葉が心に響きました。そして、子ども達に『だったらこうしてみたら』を伝えられるように、私も学び続けようと思いました。』、「具体例があり、とても分かりやすく、聞きながら、普段じっくり考えることができないことを考える貴重な時間になりました。」等の声が聞かれ、企業の経営者と教育関係者の話から、学校教育につながる気付きを得る有意義な時間となったことが分かった。

以上の学びの流れをとおして、参加者が各自の立場から自己の在り方を見つめ直し、豊かな気付きをとおしてウェルビーイングな学校創りと先生の働き方に対する視座を高める一助とすることができた。「今回のような研究協議、講演会、パネルディスカッションの流れはとても勉強になりました。」等の意見も聞かれ、一日をとおして、参加者の思考が持続（学びのつながり）するように内容を構築することは、研修観の転換、参加者が気付き、学びを深め、視座を高める一助となることが分かった。

アイデアや工夫したこと：

同じキャリアステージごとの「対話」



募集ちらし表

裏（コンセプトを明記）



【基調提案】で視点の明確化



「対話」：分散会①管理職



分散会②ベテラン・中堅教諭



分散会③若手教諭・学生



植松努さんの【講演】



【パネルディスカッション】
ホワイトボードのメッセージを活用し、会場と一体感を演出

